

## 福岡市スケート連盟

【設立年月日】

1962（昭37）年

【加盟年月日】

1965（昭40）年

【歴代会長】

1962（昭37）年 徳 島 喜太郎

1982（昭57）年 市 川 慶 三

1993（平 5）年 小 森 孝 男

1997（平 9）年 右 田 喜 章

2003（平15）年 堤 敬 志

2007（平19）年 磯 山 誠 二

2010（平22）年 入 江 浩 幸

【歴代理事長】

1962（昭37）年 星 野 謹 吾

1972（昭47）年 内 田 秀 夫

1977（昭52）年 大 井 久 喜

2003（平15）年 富 永 敏 明

### 【沿革】

福岡市のスケート競技は、福岡市天神、現ソラリアホテルの地に1955（昭30）年、「福岡スポーツセンター」が開業したことから始まりました。大陸でのスケート競技経験者が福岡に多かったことも、普及が早かった理由として挙げられます。

福岡市では早くも57（昭32）年冬季国体にフィギュアとアイスホッケーが初参加。同年、福岡大学にアイスホッケーとスピードの同好会も発足。その後、国体や大学の大会などに積極的に参加し、徐々に成績を上げていきました。

1962（昭37）年、福岡市体育協会の設立を機に、福岡市スケート連盟創設の気運が高まり、それまでテニスボールでアイスホッケーを楽しんでいた職域クラブから、スケートの幅広い普及を目指し、組織化を図りました。同年、福岡市スケート連盟を設立。福岡市体育協会へは3年後の65（昭40）年に加盟しました。

当初、理事会の下にフィギュア、スピード、アイスホッケーの3部門を置き、各専門部の指導員で普

及委員会を組織。毎週木曜、一般を対象に3部門の教室を開催したり、火・金曜にはリンクに滑り放題の“スピードタイム”を設けるなどしました。

福岡市でスケートが普及した背景の一つに、中学校での熱心な指導が挙げられます。スケート競技経験のある教師を中心に、中学にスケート部を開設。当初、4校で行っていた日曜の早朝貸切練習会への参加校も次第に増え、65（昭40）年には福岡市中学校体育連盟に、東京以西唯一のスケート専門部が創設されたのです。

そのような環境で育成された中体連1期生が、高1になった64（昭39）年、スピードは冬季国体で福岡市連初の入賞を果たしました。その後も国体成年部門や全日本選手権で優勝や上位入賞する選手が続出し、72（昭47）年の札幌オリンピックではロングトラックのレースに伊藤清美が出場しました。また、アイスホッケーは国体少年の部において65（昭40）の初出場以来、徐々に力をつけ初め、69（昭44）年には国体アイスホッケー初入賞5位を手にし、その後の7年間はベスト8以上、うち2回準決勝進出の成績を上げるなど、昭和40年代は福岡市アイスホッケーとスピードにとって光り輝いた時代でした。

しかし71（昭46）年、中学校指導要領、特別教育活動の改変で中学や高校スケート部の活動は途絶えましたが、代わりに台頭してきたのがフィギュア部門です。75（昭50）年頃から全国大会優勝・入賞者を輩出し、ついに88（昭63）年第15回カルガリーオリンピック・アイスダンスに鈴木弘幸・田中智子が出場しました。

その後の2000（平12）年頃からフィギュアの黄金期が始まります。全日本や多くの国際大会で活躍した岡崎真（福大）、そして岡崎の引退後は中庭健介（パピオC）と南里康晴が2012（平23）年までトップ選手として福岡のみならず日本のフィギュア界を引っ張ってきました。

スピードのショートトラックでは石原辰義が1979（昭54）年に世界最高記録を達成、一躍注目を集めました。世界トップの選手に成長した石原は、数々の輝かしい記録を打ち立て94年に引退し

ましたが、02（平14）年～06（平18）年には、山田伸子、古屋由布子、三浦裕、池智徳など多くの選手が、世界レベルの大会への出場を果たすなど、昭和40年代の黄金期に近づいてきました。

## 【現在の活動】

フィギュアでは郡山智之（福大）や山田耕新（関大）が福岡のトップとして活躍する中、野添紘介（東福岡）や06（平18）年のトリノ五輪を見てスケートを始めた川原星（筑邦西中）が天性の素質でトリプルアクセルまで習得し、既に数々の国際大会で活躍しています。

女子は上位に入る選手がおらず、全日本に出られる選手も少なくなりました。ここ10年ほど前代未聞のフィギュアブームでクラブや教室がパンクするほど入会希望者が殺到したおかげで競技人口は増えてきましたが、突出した選手は見当たりません。国体でもなかなか入賞できない年が続きましたが、11（平23）年の三沢国体で8年ぶりに入賞を果たしました。国際大会でも高い評価を得ている藤澤亮子（飯塚高校）と平田奈々美（福岡女学院）が初参加で素晴らしい能力を発揮してくれたのです。彼女らと同世代の選手は実力のある者が多く、今後の成長が楽しみです。



〈藤澤亮子選手の演技〉

スピードでは、小中学生のノービスクラスが着実に力をつけており、全日本ノービス大会で04（平16）年に与那誠一が総合優勝、また、弥中美由は05（平18）年以降10（平22）年までに、総合

優勝を4回達成、09（平21）年にはアジアショートに出場しています。他にも07（平19）年宮田侑季・総合2位、辰巳香子・総合3位、09（平21）年宮田隆平・総合2位、床次秀夫は08（平20）年・総合2位、10（平22）年・総合3位、また橋本啓嗣は10（平22）年・総合2位、11（平23）年にはアジアショートに出場）など、上位入賞者が相次いでいます。



〈第30回福岡市民スピードスケート競技会〉

また、簗原亜季、高島はるか、横山世奈、水谷悠一など将来楽しみな選手も多く在籍しています。

アイスホッケーでは、2011（平23）年に46回を向かえた、社会人、大学生、高校生のチームによる福岡市民リーグ戦や20回目を向かえる中学生、小学生、女性のチームによるジュニア・レディス親善大会を開催しています。

普及部で行っている教室には低年齢層の方々が多く参加されていますが、幅広い年齢層にスケートの基礎を学んで頂くことと、その中から競技選手の発掘を目指して、毎回指導に当たっています。

### ■本連盟主催の大会・教室

- ・福岡市フィギュアスケート競技会
- ・福岡市民スピードスケート競技会
- ・アイスホッケー福岡市民リーグ戦
- ・福岡市アイスホッケー戦ジュニア・レディス親善大会
- ・初心者スケート教室、夏休みスケート教室